

平成 26 年度入学試験

## 一 般 学 科 試 験

桐朋学園大学音楽学部

Ⅰ～Ⅱの各設問すべてに取り組み、それぞれの答えを解答用紙の所定の箇所に書きなさい。

### 注意事項

1. 問題用紙に落丁などある場合は、挙手をして申し出てください。
2. 退出は試験開始後 61 分経過してから可能です。ただし、終了時刻 5 分前以降の退出は、混乱を避けるために、認められません。
3. 終了時間前に退出する場合は、解答用紙の上に問題用紙を重ねて机の上に置き、挙手をして試験監督の許可を得て、静かに退出してください。

# I 次の国語課題の設問に答えなさい。

国語課題一 次の文章を読んで後の設問に答えなさい。

埴輪はにわというのは、元来はその言葉の示している通り、埴土はにつちで作った素焼き円筒のことである。それはたぶん八百度ぐらいの火熱を加えたものらしく、赤褐色を呈している。用途は大きい①ゼンボウコウエンブンの周囲の垣根であった。が、この素焼きの円筒の中には、上部をいろいろな形象に変化させたものがある。その形象は人間生活において重要な意味を持つているもの、また人々が日ごろ馴れ親しんでいるものを現わしている。家とか道具とか家畜とか家禽かきんとか、特に男女の人物とかがそれである。伝説では、殉死じゆんしの習慣を廃すために埴輪人形を立て始めたということになっているが、その②シンギはわからないにしても、とにかく殉死と同じように、葬られる死者を慰めようとする③意図に基づいたものであることは、間違いないところであろう。そういう埴輪の形象の中では、人物、動物、鳥などになかなかおもしろいものがある。それをわれわれは、わが国の古墳時代の造形美術として取り扱うことができるのである。

わが国の古墳時代というと、西暦紀元の三世紀ごろから七世紀ごろまでで、応神おうじん、仁徳にんとく朝の朝鮮関係を中心とした時代である。あれほど大きい組織的な軍事行動をやっているくせに、その事件が愛らしい息長帯姫おきながたらしひめの物語として語り残されたほどに、この民族の想像力はなお④稚拙であった。が、たとい稚拙であるにしろ、その想像力が、一方でわが国の古い神話や建国伝説などを形成しつつあった時に、他方ではこの埴輪の人物や動物や鳥などを作っていたのである。言葉による物語と、形象による表現とは、かなり異なってもいるが、しかし(A)それが同じ想像力の働きであることを考えれば、(I)いろいろ気づかされる点があることと思う。

神々の物語にしても、この埴輪の人物にしても、前に言ったようにいかにも稚拙である。しかし稚拙ながらも、あふれるように感情に訴えるものを持っていることは、⑤イナむわけに行かない。それについてまず第一にはっきりさせておきたいことは、この稚拙さが、原始芸術に特有なあの怪奇性と全く別なものだということである。わが国でそういう原始芸術に当たるものは、縄文土器じようもんやその時代の土偶どぐうなどであって、そこには原始芸術としての不思議な力強さ、⑥コウミョウさ、熟練などが認められ、怪奇ではあっても決して稚拙ではない。(B)それは非常に永い期間に成熟して来た一つの様式を示しているのである。アわが国では、そういう古い伝統が、定住農耕生活の始まった弥生式文化の時代に、一度すっかりと振り捨てられたように見える。土器の形も、模様も、怪奇性を脱して非常に簡素になった。人物や動物の造形は、銅鐸どうたたくや土器の表面に描かれた線描において現われているが、これは縄文土器の土偶に比べてほとんど足もとへもよりつけないほど幼稚なものである。こういう弥生式文化の時代が少なくとも三世紀ぐらい続いたのちに、初めて古墳時代が現われてくるのであるから、埴輪が縄文土器の伝統と全く独立に作り始められたものであることはいうまでもない。イその出発よりよほど後に、たぶん五世紀の初めごろに、人物の埴輪が現われ出たとすると、この埴輪の稚拙さが日本の原始芸術

の怪奇性と全く縁のないものであることは、一層明らかであろう。

埴輪人形の稚拙さについて第二に注目すべき点は、この造形が必ずしも人体を写実的に現わそうなどと目ざしていないという点である。それは埴輪の円筒形に「(2)意味ある形」をくつつけただけであつて、埴輪本来の円筒形を人体に改造しようとしたのではない。このことは四肢の無雑作な取り扱い方によく現われている。両足は無視されるのが通例であり、両腕も、この人物が何かを持っているとか、あるいは踊っているのだから、ということを示すためだけに付けられるのであつて、肩や腕を写実的に表現しようなどという意図は全然見られない。しかし「意味ある形」、たとえば「甲冑」を円筒上の人物に着せたとなると、その甲冑は、四肢などに対するとは全く段違いの細かな注意をもつて表現されている。甲冑の材料である鉄板の堅い感じ、その鉄板をつぎ合わせている鉄の、いかにもかつちりとして並んでいる感じ、そういう感じまでがかなりはつきりと出ているのである。それはこの鉄の武器が、人体などよりもはるかに強い関心の対象であつたことを示すものであつて、いかにも古墳時代の感じ方らしい。甲冑のほかには首飾りの曲玉や、頭の飾りなどのような装飾品も、「意味ある形」として重んぜられていたらしい。しかし何と言つても「意味ある形」のなかには、「顔面」の担っている意味よりも重い意味を担っているものはない。(C)その点から考えると、埴輪人形の顔面が体の他の部分と⑦イチヅルしく異なつた印象を与えるのは、いかにも当然のことなのである。

顔面は、眼、鼻、口、頬、顎、眉、額、耳など、一通り道具がそろっているが、中でも眼、鼻、口、特に眼が非常に重大な意味を担っている。原始的な造形において眼がそういう役目を持つていることは、フロベニウスに言わせると、南フランスの洞窟の動物画以来のことであつて、なにも埴輪人形に限つたことではないのであるが、しかし埴輪人形において特に(D)このことを痛感せしめられるということも、軽く見るわけにはいかない。埴輪人形の一番の特色は眼である。あの眼が、あの稚拙な人物像を、異様に活かしているのである。

と言つてもあの眼は、無雑作に埴土をくりぬいて穴をあけただけのものである。通例はその穴が椎の実形の、横に長い⑧ダエン形になっていて、幾分眼の形を写そうとした努力のあることを思わせるが、しかしそれ以外には眼を写実的に現わそうとした点は少しもない。時にはその穴がまん丸であることさえもある。しかしそういう無雑作な穴が二つ並んであいていふことによつて、埴輪の上部に作られた顔面に生き生きとした表情が現われてくることを、古墳時代の人々はよく心得ていたようにみえる。二つの穴は、魂の窓としての眼の役目を十分に果たしているのである。

古墳時代の人々がどうしてそれに気づいたかを考えるためには、埴輪人形を近くからでなく、三間、五間、ウそれ以上に、時には二、三十間の距離を置いて、ながめてみる必要があると思う。それによつて埴輪人形の眼は実に異様な生気を現わしてくるのである。もしこの眼が写実的に形作られていたならば、少し遠のけばはつきりとは見えなくなるであらう。しかるにこの眼は、そういう形づけを受けず、そばで見れば粗雑に裏まできり抜いた空洞の穴に過ぎないのであるが遠のけば遠のくほどその粗雑さが見えなくなり、魂の窓としての眼の働きが表面へ出てくる。それが異様な生気を現わしてくるゆえんなのである。眼にそういう働きが現われれば、顔面は生気を帯び、(3)埴輪人形全体が生きてくるのはもちろんである。古墳時代の人々はそういうふうにして埴輪の人形を見、

またそういうふうに見えるものとして埴輪の人形を作ったのであった。

こう考えてくると埴輪の人形の持つているあの不思議な生気のなぞが解けるかと思う。埴輪人形の製作者は人体を写實的に作ろうとしたのではない。ただ意味ある形を作ろうとしただけである。しかし意味ある形のうちの最も重要なものが人の顔面であったがゆえに、ああいう埴輪の人形ができあがったのである。その造形の技術はいかにも稚拙であるが、しかし「人」を顔面によって捕えようとする態度は、技術と同じに稚拙とはいえない。技術を学び取れば、それに乗って急にあふれ出ることのできるようなものが、その背後にある、と私は感ぜざるを得ない。従って、これらの稚拙な埴輪人形を作っていた民族が、わずかに一、二世紀の後に、彫刻として全く段違いの推古すいこ仏ぶつを作り得るに至ったことは、私にはさほど不思議とは思えないのである。

(「人物埴輪の眼」和辻哲郎、岩波文庫『和辻哲郎隨筆集』より)

設問一 〰〰線部①〰⑧の、カタカナを漢字に直し、漢字はその読みを平仮名で書きなさい。

設問二 空欄ア〰ウに入る適切な言葉を、次から選んで記号で答えなさい。(同じ記号を二回使わないこと。)

- a しかるに                      b しかも                      c あるいは

設問三 〰〰線部(A)〰(D)の指示語の指し示している内容を本文をまとめるかたちで答えなさい。

設問四 本文に書かれている日本の歴史的時代を示す次の言葉を、古い順に記号で並べなさい。

- ア 古墳時代      イ 縄文      ウ 弥生

設問五 〰〰線部(1)「いろいろ気づかされる点があることと思う」とありますが、埴輪の造形において筆者が述べている二つの点を抜き出すかたちで答えなさい。

設問六 〰〰線部(2)「意味ある形」とありますが、その例として本文中にあげられているものを四つ解答欄に書きなさい。

設問七 〰〰線部(3)「埴輪人形全体が生きてくる」のは、何によってだと筆者は言っていますか。本文のことば十文字以内で解答欄に書きなさい。

国語課題二 次の①～⑤の傍線部の故事成語について、その読みを書き、その意味をア～オから選んで記号を書きなさい。

- ① 画竜点睛を欠く
- ② 風習を墨守する
- ③ 青雲の志を抱く
- ④ 地方へ左遷される
- ⑤ 杜撰な仕事

- ア 立身出世をしようと意気盛んな気持ち。
- イ 官位役職を格下げされること。
- ウ かたくなに守って自分をまげないこと。
- エ 物事の最後に加える大切な仕上げ。
- オ 誤りが多く、いかげんなこと。

## Ⅱ 次の各設問に答えなさい

問 1. 次の英語を日本語になおしなさい。

1. I went to New York to see that very popular musical.
2. Have you read that writer's new novel yet?
3. It is very difficult to be honest and say, "Yes, I have made a mistake."
4. Those boys and girls singing on the stage are students who study music at this school.
5. They are looking for a person who can teach both English and Chinese.
6. I know how important it is to make many good friends when young.
7. This is the poem which he wrote just after he won the prize.
8. I saw a young man help an old gentleman carry his heavy bag.
9. You must not go there alone. You had better find someone to go with you.
10. He and I used to sing some songs together in this classroom.

問 2. 次の日本語を英語になおしなさい。

1. あなたはいつ、その事故を知りましたか？
2. わたしは日本に帰国後、音楽の先生になるつもりです。
3. 考える時間をいただけますか？
4. 昨日の午後、私はその公園を散歩していました。
5. 誰がこの歌を歌ったのか教えてください。

問 3. 次の意見について、あなたの考えを 5～6 行程度の英語で書きなさい。

Where the spirit does not work with the hand, there is no art.

解答用紙

専攻
受付番号
氏名

得点

I・1 解答欄

設問一

⑦	④	①
⑧	⑤	②
	⑥	③

設問二

ア
イ
ウ

設問三

(A) それ

(B) それ

(C) その点

(D) その点

設問四

↓

↓

↓

推古

設問五

1

2

設問六

設問七

I・2 解答欄

⑤	③	①	読み
			意味
	④	②	読み
			意味



専攻		受付番号		氏名

得点	
----	--

II 解答欄

問1

1 \_\_\_\_\_

2 \_\_\_\_\_

3 \_\_\_\_\_

4 \_\_\_\_\_

5 \_\_\_\_\_

6 \_\_\_\_\_

7 \_\_\_\_\_

8 \_\_\_\_\_

9 \_\_\_\_\_

10 \_\_\_\_\_

問2

1 \_\_\_\_\_

2 \_\_\_\_\_

3 \_\_\_\_\_

4 \_\_\_\_\_

5 \_\_\_\_\_

問3

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_